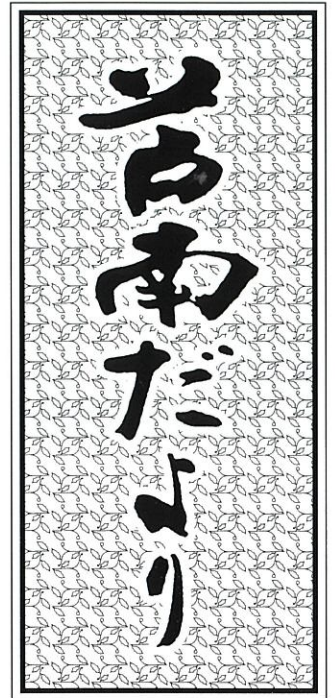




第191号
令和5年3月1日
発行
苦小牧南高等学校PTA



「僕の前には道はない」
＝答えのない問いに向きあう

校長

高橋 昭 仁

令和3年4月に南高校に着任して、尾の長いやや大きな鳥に初めて出会いました。愛用の1998年発行の図鑑「新山野の鳥」に照らすとカササギとわかりましたが、そこには「九州佐賀平野

近辺の農耕地周辺で留鳥」と書かれていたのです。北海道は分布域に入っていない。頭の中が？でいっぱいになりました。苦小牧にカササギが定着したのは比較的最近のようです。彼らを見るたびに「君はどうしてここまで来たの？」と聞いてしまいます。

もとの住み処を離れ、新しい環境に挑戦し適応してたたかに生きているカササギの姿が、卒業していく生徒たちの姿に重なります。4月からは、高

校まで過ごしたほぼ同年齢の集団とは全く異なる新しい環境で自分の可能性を拡げていくことになるからです。

本校は今年136名の卒業生を送り出すことができました。卒業生並びにご家族の皆さんに心からお祝いを申し上げます。これまで保護者として懸命に生き、子育てをされてきたご家族の皆さんにとって、大きな区切りであり、そのご苦労に心から敬意を表します。今年の高校の卒業式はこれまでとは少し異なり、多くの生徒が既に成年年齢となっています。親としてはまだまだ心配で、この先も支援が必要と思いますが、法的には保護者という責務からいけば卒業されたこととなります。卒

業生たちは本校の学びの中で、それぞれに成長しています。この先は、互いに大人として尊重し合う関係に変わっていくことでしょう。それが喜びになるものと思います。

今年の卒業生からは、私も多くの思い出をもらいました。本校に着任して最初に顔と名前を覚えた生徒や毎朝の登校する様子がとても印象深い生徒、突然校長室の掃除の申し出をしてくれた生徒などと、様々なことがありました。出会えて幸せな気持ちをいただきました。

現代は「予測ができない時代」とか「ただ一つの正解のない時代」などと言われますが、「答えのない問いに向きあう」のはいつの時代にあっても、人類がどんなに進歩しても同じだと思います。多くの日本人が中学校で読んでいる、彫刻家で詩人の高村光太郎による「道程」という9行詩は大正時代に発表されたものです。「僕の前には道はない、僕の後ろに道はできる」と始まるこの詩は若者が持つ将来への不安と、前向きな決意が感じられるとされてきました。「答えのない問いに向きあい、自分で決めて自分で進む」、進んだことで後ろにできた道は、きつと自分にとっての正解になります。カササギが未踏だった苦小牧に生活域を切り拓いたように、南高生そして私たち大人も道をつくりながら、未来へ進みたいと思うのです。

さて、今年度は、新型コロナウイルスの影響を受けつつも、3年ぶりのオンライン海外語学研修を含めて、教育活動をほぼ予定どおり行うことができました。新型コロナウイルス罹患者は全生徒の30%を超えたものの、校内での感染拡大がなかったお陰です。改めてご協力に心から感謝申し上げます。その一方でPTA活動は縮小のままでした。子育てにもただ一つの正解はなく、悩みながらの日々の中で同世代の子を持つ親どうしが繋がる機会、そして教職員とも交流する機会を十分に持てなかったことを、申し訳なく思います。

また、コロナやトラブルなども含めて、学校で起こっていることは保護者の皆様には原則お知らせする、公開するという考え方で進めてきましたが、コロナ禍のもと学校に来ていただく機会を設けることができませんでした。本校には、科目選択の説明や総合的な探究の時間のポスター発表など、保護者の皆様にも一緒に見ていただきたい活動がたくさんあります。新年度の課題です。この先も教育活動を教職員一同で推進してまいりますので、どうかご協力くださいますようお願い申し上げます。

がらも乗り越え、仲間の大切さを実感したり、様々な人に支えられて今の生活があるということを実感したりしたと思います。また、四日間も家を離れ、家族のありがたみを実感した人も多かったのではないのでしょうか。

皆さんはこのような行事や、日々の学校生活を送る中で、少しずつ成長してきました。そして、新しい環境でスタートした三年間の高校生活もいよいよ終わりです。これから皆さんは、それぞれの道で、高校生活のスタートや毎年のクラス替えで味わったような緊張感で新生活をスタートすることになるでしょう。大変なことも多々あるとは思いますが、三年前の皆さんより遙かに成長した姿を目の当たりにし、多少の困難があっても挫けず乗り越えてくれるものと確信しています。そんな皆さんに、作家・壇一雄さんが自分の子どもたちに送った言葉を皆さんに贈ります。「おまえたちの前途が、どうぞ多難でありますように。多難であればあるほど、実りが大きいのだから。」新しい環境でもまれ、またどこかで大きく成長した皆さんの姿をみることを期待して

います。

至らない部分も多かったと思いますが、三年間皆さんと過ごせて本当に良い思い出をさせてもらいました。ありがとうございます！そしてその三年間は、保護者の皆さまのご協力あつてのものです。保護者の皆さまのご理解ご協力に感謝申し上げます。三年間、誠にありがとうございます。

「蛙」

三組担任 宮 澤 裕 幸

卒業を迎え、この日までみんなは一人一人それぞれの十八年年間の人生を歩んできました。辛かったこと、楽しかったこと、悪かったこと、それは本当に様々です。私が常に思っていることは、過去は関係ない、今、そしてこれからどうして行かなければならないのかをしつかりと自分で考え、判断し進むこと。そして何より現状に満足しないこと。今までの人生は、沢山の人に見守られた小さな世界の中で過ごしてきました。別にいいじゃん、ムカツク、うざい、しつこい、なんでこんな事しなきゃいけないの？ 関係ないし 私にとつてすべて最高の褒め言葉です。

われわれは常に最悪の状況を考え、そして自ら進むべき路を自分で見つけられるようにとみんなに話をします。今はまだそのことに気がつかなくてもいいと思います。ただ四月からは、「クラス」という守られた集団の中に属することはできません。保健室もありません。「個人」として責任のある言動、行動を取らなければならぬ、そんな大海にみんなは一人で舵を取っていくことになります。狭い視野で、ちっぽけな大人にならないように、これからの人生、とにかくがむしゃらに突っ走って、色々なことに挑戦してください。そして、ふと立ち止まったとき、自分の歩んできた路をじっくりと振り返ってみてください。きっと「何か」に気づくはずです。どんな荒波にも飲み込まれない、大きく、たくましく成長したみんなに、大海原のど真ん中で出会えることを期待しています。卒業おめでとう。

保護者の皆様には三年間にわたり、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。厚くお礼申し上げます。卒業生ならびに保護者の皆様の今後のご健勝とご活躍をお祈りいたします。

「卒業の晴れの日に」

四組担任 竹 内 聡 哉

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんへのメッセージは「飛翔」に載せたつもりでしたが、読み返してみると自分の感想だけだったことに気づきました。改めて祝卒業ということで一言。楽しかった三年間でしたね。コロナ禍で入学し、ウィズコロナの日々を送る高校生活でしたが、皆さんの適応力のおかげで、活気に満ちた学校生活になりました、ありがとうございます。皆さんの伸びしろは無限大です。これからその適応力をそれぞれのステージで発揮して、更なる成長を期待しています。

保護者の皆様、おめでとうございます。今日まで高校生だった子どもたちは、明日から成人となり、新たな進路へ立ち立ちます。誰もが経験する大きな岐路を迎えています。大人としての振る舞いが求められる子どもたちに、これからは人生の先輩として大人目線のアドバイスをよろしく願います。明日からは最低限の援助で結構です、子どもたちには一日も早く大人になってもらいましょう。これまで子育てお疲れさまでした。

三年間を振り返って

三年次二組 千葉愛里

私が南高校で過ごした日々を振り返ると、本当にあつという間の三年間だったなと感じます。

私たちは、コロナ禍で入学した最初の学年でした。マスクをするのが当たり前になり、入学してすぐの頃はなかなかお互いの顔を覚えられなかったのが懐かしいです。その後自粛生活や分散登校が始まり、初めての学校祭は中止になってしまいました。中学生の時に想像していた学校生活とは全く違うものになりましたが、スポーツ大会や遠足、スキー研修などの行事が開催できるようになり、その活動を通じてクラスメートだけでなく、他クラスの人も仲良くなることができました。二年次では一度見学旅行が延期になり、このまま中止になってしまうのではないかととても不安でした。ですが、先生方が諦めずに計画して下さい、予定通り行えたので本当に嬉しかったです。ありがとうございます。高校生活一番の思い出となりました。そして、南高校名物の「行灯行列」が一回だけでもできてよかったです。途中大雨の時間帯もありましたが、一生懸命作った行灯がきれいに光っていて感動したので覚えています。三年次の時に全ての行事が行えて幸せだったと改めて思いました。勉強面では、「自分で学びたい授

業を選択できる」という単位制の利点を活かし、二年次からは英語と国語の授業を多く受けました。自分の得意な教科を伸ばせる環境のおかげで、英語の力を伸ばすことができました。忙しい中時間を作り、英検の面接練習をして下さったり、合格した時わざわざ教室に来て祝って下さる先生がいたり、先生方の優しさに助けられたことがたくさんありました。南高校を選んで良かったです。

部活動では、二年次の途中から創設された国際交流クラブに入部しました。自分たちで一から活動内容を考えるのがとても新鮮でした。ただネイティブの方と英語で話すだけでなく、海外の文化を実際に学び体験することもできたので、毎回来しみながら活動することができました。自分たちで予定を調整して活動日を設定できるので、勉強やアルバイトと両立することができました。また、珍しい部活動なので、大学入試で面接官の方に興味を持っていただけて、活動内容や研修に参加した感想などを詳しく質問されました。ネイティブの方と一対一でお話ししたり、海外の文化に実際に触れたりする機会をたくさんいただけて、自身自身の成長にもつながりました。何より、面接で自分たちで考えた活動を評価していただけたことがとても嬉しかったです。

最後に、南高校で過ごした三年間は私にとってとても大切な思い出になりました。三年間、本当に楽しかったです。

私と関わって下さった全ての方々感謝申し上げます。



三年次三組 三國涼太

高校三年間を振り返ってみると、勉強や部活動はもちろん頑張りましたが、何よりも生徒会活動に力を入れた三年間だったと感じています。私が生徒会に所属した理由は、高校に入学したら何か新しいことに挑戦したいと考えていたからです。所属したときは、何をすれば良いかも分からず先輩方に迷惑をかけてばかりでしたが、そこで培った経験は後輩を引っ張っていくのに役立ちました。生徒会に所属して良かったことがいくつもあります。一つ目は、今まで関わるのがなかった先輩や後輩、同級生との関わりが出来たことです。学校行事の運営方法について分からないことを教えてもらった

り、進路の相談もすることが出来ました。二つ目は、話す機会がなかった先生方との関わりが出来たことです。苦南祭などの行事の相談などで今まで話す機会のなかった先生方と親しくなることが出来ました。

生徒会を引退してからは進路活動で忙しくなりました。行きたい大学は決まっていたのですが、自己推薦書や面接などの準備が出来ていなかったのが大変でした。限られた時間で、多くの先生方の協力をいただき、無事合格することが出来ました。

苦小牧南高校で過ごした三年間は、私にとってとても大切でかけがえない思い出になりました。関わって下さった全ての方々に、心から感謝したいと思います。三年間本当にありがとうございました。



合格体験記

小さな努力の積み重ね

三年次四組 黒 瀧 康 平

私は公募推薦で釧路公立大学経済学部経済学科に合格しました。

公募推薦の試験内容は小論文と面接でした。小論文は試験日の二ヶ月前から対策を行いました。私が小論文で特に気をつけていたことは、自分の書いた文章に一貫性を持たせることです。また、難しい課題文でも、自分の経験や客観的意見を混ぜるなど、論の説得力を増すことを心がけました。小論文では一貫性を持たせるために、何を問われているのかを正確に捉える必要があります。私の場合はその練習のために、十年分の過去問を解きました。

面接練習は試験日の一ヶ月前から始めましたが、もともと早く始めるべきだったと後悔しています。私が面接練習の中で特に苦労したことは、経済問題に対して自分の考えを問われる場合でした。私は知識が不足していたため、不安で一杯でしたが、色々な先生に面接練習をしていたことで、徐々にどんな質問にも対応できるようになりました。

推薦入試は一般入試に比べて、合

否が決まる時期が早いというメリットがあります。しかし、合格が保証されているわけではないので注意が必要です。それでも、志望校に合格するための選択肢を増やせるという点では良いと思います。ですから、一つでも評定を上げられるように、日頃の勉強から小さな努力を積み重ねていけると、進路選択の時に必ず役に立ちます。

最後に私が合格できたのは、多くの先生方や家族、友人の支えがあったからです。本当にありがとうございます。目標達成に向かって頑張ってください。

やれることを

三年次四組 秋 保 空 璃

私は学校推薦型選抜の公募枠で、埼玉医科大学の看護学科に合格しました。

苦小牧南高等学校から、私の志望大学を受験した人が一人もいなく、過去問も受験報告書もありませんでした。また、推薦の過去問は大学からも掲示されたことがなく、受験対策を行うのが大変でした。

受験科目は小論文と面接でした。私は小論文に苦手意識があったので、毎日書いて先生に添削してもらいました。小論文を数多く書くことで、ポイントを押さえて書くことができました。るようにになりました。

面接練習は試験一ヶ月くらい前から始めました。初めは担任の先生から、面接に対する心構えや実施方法を教えてもらい、その後は多くの先生と練習をしました。先生によって、まったく質問の内容が違うので、多くの先生と練習を繰り返す方が得るものも多いと思います。

私は推薦入試の準備と並行して、一般入試の勉強もしていました。推薦は絶対に合格するわけではないので、もしものことを考えて準備をしておくことが大切だと思います。

受験の時は、私たちを多くの人が支えてくれています。その方々に対する感謝の気持ちを忘れず、自分が今まで頑張ってきたことを信じ、最後まで諦めずに全力で取り組んで下さい。期待しています。

やりたいことのために

三年次四組 渡 邊 朱 莉

私は苦小牧市職員採用試験で事務職を受験し、合格しました。苦小牧市採用試験は、筆記試験と面接試験があります。

私が筆記試験の勉強を始めたのは、高校二年生の冬休みです。筆記試験では言語・非言語分野の能力検査と人柄や性格を知る性格検査の問題が出題されます。能力検査は学校では見ないような問題が多いです。私は

特に非言語分野が苦手だったので、基礎をしっかりと憶えることから始めました。それから進路指導室にある問題集をコピーしたり、模試を受けたりして、実際の問題を解く練習を繰り返しました。

面接練習を始めたのは試験の約一ヶ月前です。面接試験は一次と二次があります。私は合計二十回くらい練習をしました。できるなら不安を感じなくなるまで、何回も練習をした方が良いです。自分が必ず伝えたいと思っていることを決めて、素直に伝えられるように練習すると良いと思います。私は面接練習をして下さった先生方に「相手にプロポーズする気持ちで面接する」と教えていただきました。自分が進みたい進路先に「ここに進学、就職したい！」という強い思いを伝えられるように頑張ってください。

最後に、私は最初から苦小牧市職員になりたいとは思っていませんでした。南高校には、大学に進学後、働きたいと思って入学しました。しかし南高校での活動を通じて、自分が一番やりたいと思えることに出会いました。皆さんがこれから進路を考えていく上で、自分の周りで起こっていることに関心を持って生活してほしいと思います。私の経験が少しでも役に立ったら嬉しいです。応援しています。

令和4年度進路状況 (令和5年2月1日現在)

4年制大学(国公立)

公立千歳科学技術大学	1
釧路公立大学	1
計	2

短期大学

北星学園大学短期大学部	2
北海道武蔵女子短期大学	2
計	4

就職(公務員)

苫小牧市役所	2
苫小牧市消防	1
北海道警察	1
石狩市職員	1
砂川市役所	1
国家一般職(北海道開発局)	1
計	7

4年制大学(私立)

北海道文教大学	1
北海学園大学	3
藤女子大学	1
札幌学院大学	2
北星学園大学	8
北海道科学大学	2
北翔大学	2
星槎道都大学	1
北海道医療大学	2
北海道千歳リハビリテーション大学	2
日本医療大学	1
札幌大学	2
酪農学園大学	1
東京農業大学	1
創価大学	2
日本大学	1
埼玉医科大学	1
東洋大学	1
計	34

専修学校(看護・医療系)

苫小牧看護専門学校	13
日鋼記念看護学校	1
市立室蘭看護専門学院	1
三草会札幌看護専門学校	1
鶴舞看護専門学校	1
札幌青葉鍼灸柔整専門学校	2
札幌医療リハビリ専門学校	1
北海道リハビリテーション大学校	1
計	21

就職(民間)

北海道銀行	2
ENEOSウイング	1
北海道石油備蓄	1
北海産業	1
柏学園	1
イーエス総合研究所	1
三星	1
計	8

専修学校(衛生・教育・福祉・情報等)

札幌歯科学院専門学校	1
青山建築デザイン・医療事務専門学校	1
北海道芸術デザイン専門学校	2
北海道美容専門学校	1
日本工学院北海道専門学校	1
札幌ミュージック&ダンス・放送専門学校	1
吉田学園情報ビジネス専門学校	1
札幌歯科学院専門学校	1
札幌&テクノロジー専門学校	1
大原公務員法律専門学校	1
計	11



3 年 次 生



対 面 式



入 学 式

今年度の活動より



学 校 祭



スポーツ大会



1 年次遠足



3 年次遠足



2年次見学旅行



1年次宿泊研修

あ と が き

昨年十月、私にとっての昭和のスーパースター、アントニオ猪木さんの訃報を耳にしました。

小学生の頃、金曜日の夜8時から祖母と正座をして観ていた『ワールドプロレスリング』。古館伊知郎さんの実況、リング入場時に流れる曲『猪木ボンバイエ』、赤いタオル、サーベルを持った悪役レスラーと繰り広げられる技の応酬に胸を熱くした当時の記憶。

また、猪木さんは多くの人々を勇気づける言葉も残してくれました。

「元気がすかー?!」
元気が一番、元気があれば何でもできる!

この道を行けばどうなるものか、危ぶむなかれ。

危ぶめば道はなし。

踏み出せばその一足が道となる。

迷わず行けよ。

行けばわかる。

いくぞー! 1、2、3、だー!」

この道を行けばどうなるのか分からないという不安や恐怖を乗り越えて、道を歩み出すこと。すなわち、勇気を出すことの大切さを感じていました。

新しい環境や次のステージに進むとき、ふと猪木さんの言葉を思い出します。

(教頭 中村 隆之)